

謎の「渡来人・秦氏」と交野



月例勉強会

令和7年12月20日

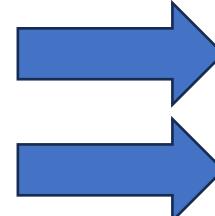
巽憲次郎

渡来人と帰化人

①

近代には外国人が日本国籍を取得することを法律上帰化 と言うが
狭義での日本史上渡来人と言えば主として平安時代初頭までに
朝鮮半島や中国大陆から日本に移住してきた極東アジアの人々を指す
歴史上重要な意味を持つのは四世紀末から七世紀後半に移住して
きた渡来人である。

帰化
渡来



国家が成立している場合に用いる
成立していないくても用いる

皆さんは日本に現在神社や寺院の数は
いくら位在ると思しますか？

ちなみにコンビニは
約 56000店位 在るそうです。

交野 と『渡来人・秦氏』

③

日本の神社の数 全国で 約87,000社(神社庁)

寺院の数 約75,000所(文化庁)

その他 諸教団 約17,000社

全国のコンビニの店数 約56,000店(参考)

日本の3大神社

1. 八幡神社 祭神 応神天皇(誉田別尊) 約44,000社
2. 稲荷神社 祭神 稲荷大神(宇迦之御魂)約30,000社
3. 天満宮 祭神 菅原道真 約12,000社

上記 八幡神社と稻荷神社で全体の85%を占める。
この2社の創立にはいづれもある渡来氏族が関与
したとされている。

それは赤い社殿 赤い鳥居に象徴される。



秦氏の関わったとされる神社

(4)

宇佐八幡 八幡神社の総本宮

松尾大社オオヤマクイを祀る

伏見稻荷

愛宕神社

上賀茂神社 鴨氏と婚姻

伊勢神宮【7世紀末】

下鴨神社

蚕の社

大酒神社 秦氏の氏神を祀る

大避神社秦川勝を祀る赤穂市

出石神社

日吉大社オオヤマクイを祀る

金比羅宮 別名秦の宮とも

敢国神社 四道將軍の1人

諏訪大社 長野

白山神社 信仰のルーツは朝鮮

鹿島神宮 茨城

子部神社 奈良秦莊村

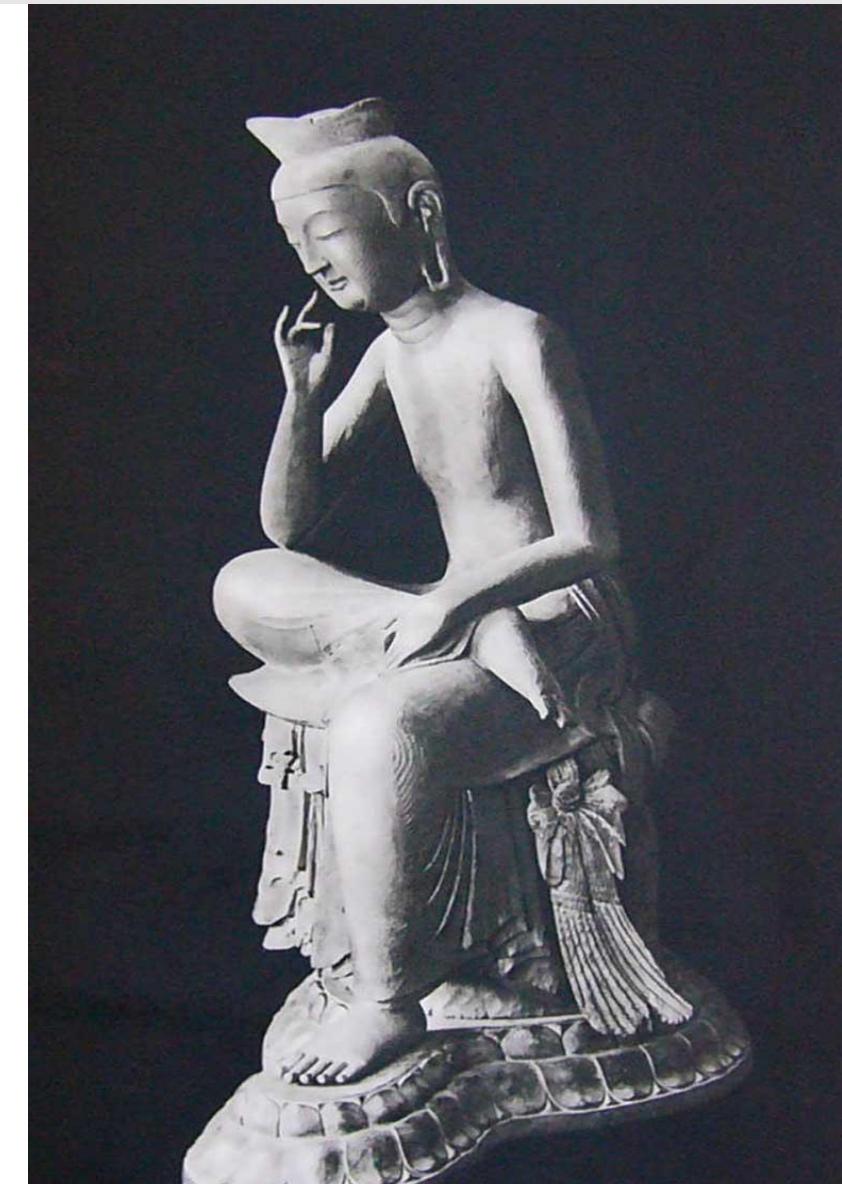
兵主大社 滋賀

その他全国各地に多く存在

秦氏が関わった代表的な寺院
太秦 広隆寺 【京都最古】



国宝弥勒菩薩半跏思惟像 ⑤
国宝指定 第1号



古代最大の氏族『秦氏』とは

⑥

- ・古代日本において最先端のハイテク技術をもって日本の文化発展に多大な寄与をするが表舞台には殆ど登場しない「謎多き氏族」である。
- ・6世紀前半 欽明天皇の時代には秦氏グループや配下の民を含めて
- ・17万人のボリュームを抱えていた。
- ・これは当時の人口の5%を占めている。

秦氏はいつ頃日本にやってきたか

⑦

【日本書紀】記載 3世紀末頃～4世紀初期？

応神天皇(15代)14年に弓月の君が126の県から多くの民を倭国へ移住しようとしたが新羅が邪魔をしたので葛城襲津彦らを派遣し渡来させた。

【新撰姓氏録815年】記載 嵐峨天皇代

秦氏の系譜を記載し太秦公宿禰(ウズマサコウノスクネ)は秦の始皇帝の子孫であるとしている。

【新撰姓氏録】とは

嵐峨天皇の815年に畿内に居住する氏族を管理確認する為に一括調査し、分類した。1182氏

皇別～335氏 神別～404氏 諸藩～326氏 未定～117氏
(神武以降) (神武以前) (渡来人系)

秦氏は何処からやってきたのか ⑧

◎ 記紀に残された文献や資料によると

- ① 応神時代に中央アジアから百濟経由で弓月君(融通王)一族が大挙来朝している。

◎「秦氏本系帳」(秦氏の系図)によると

- ② 仲哀天皇の頃先代功満王が渡来ており彼を秦氏の祖と記している。
古代中国の【秦始皇帝】の末裔とも明記されている。

しかし、渡来時期や先祖については諸説ありいまだに決着はついていません。

【秦氏の渡来】解説

旧シルクロードのオアシス国 弓月国(現カザフスタン)
より120県の民を率いて応神天皇の頃半島経由にて渡来。
弓月の君(最後の国王融通王)は秦の始皇帝の末裔
と記録(日本書紀)。イスラエルの消えた12氏族の
北ルートグループの流れか。みづから始皇帝の
末裔と名乗ったと記されている。(日ユ同祖論の原点)
治水による灌漑、製鉄、鉱山開発、酒の醸造、養蚕、
絹織物など高度な殖産技術を持ち込みヤマト朝廷から
厚いもてなしと保護を得ている。



日本の歴史を動かす大豪族「秦氏」の誕生である。

弓月国とシルクロードMAP



☆ 3つのシルクロード

「日ユ同祖論」による渡来の流れ ※参考

⑩

(イスラエルの失われた北王国の10氏族説多数)

ユダヤ人渡来、5つの波

第1波	紀元前13世紀	出エジプト 縄文時代・日高見国・スサノオ
第2波	紀元前722年以降	アッシリア捕囚と失われた10支族 日本建国
第3波	紀元前3~2世紀	秦の始皇帝・徐福と3千人 秦氏各地に渡来
第4波	3~4世紀	弓月国から秦氏2万人 応神天皇が受け入れ
第5波	431年以降	エフェソス公会議・ネストリウス派 蘇我氏

離散した12氏族の中の南ユダ王国【ユダヤ人】の王族が

日本に渡來した弓月部族(後の秦氏)のリーダーであった。

即ち始皇帝はユダヤ人であり秦氏もその末裔とする説

「秦氏」は何処から来たか

諸説 2

⑫

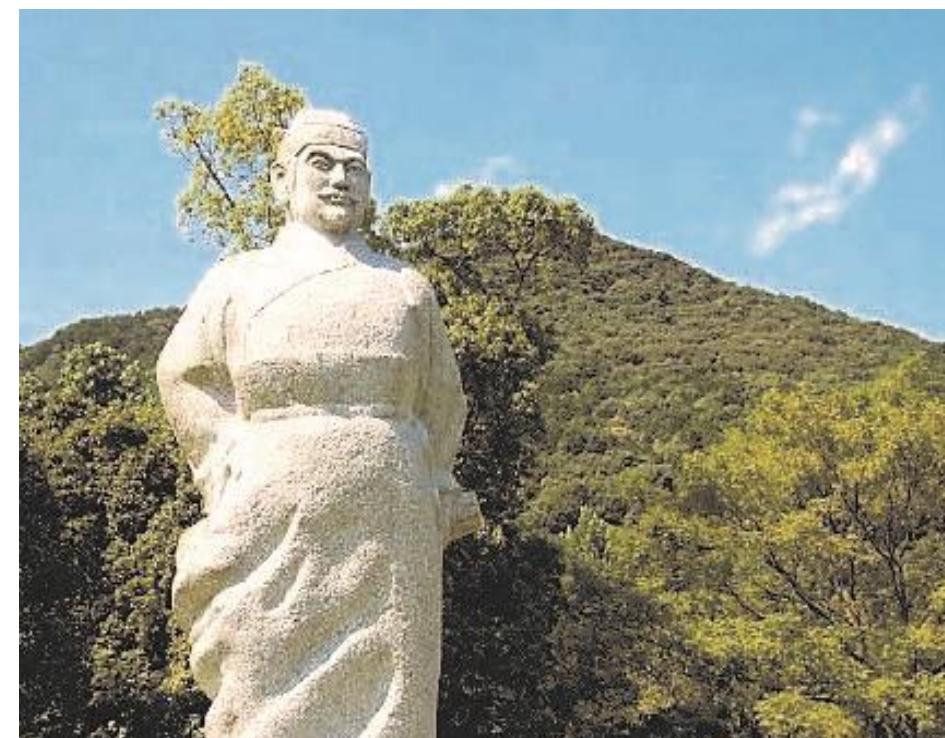
【徐福伝説】 中国の文献「史記」に記載

秦の始皇帝の命により東方に不老不死の靈薬を求めて日本に渡る。
始皇帝の処にはもどらなかった。 各地に徐福伝説が存在。

出発前徐福像



靈薬発見した徐福(佐賀)



秦氏がもたらした技術と功績

⑬

- ・ 養蚕と機織り技術
機織りを秦氏が伝えたから ハタオリモノとよばれた。
- ・ 土木 治水工事 建築
灌漑 堤 神社 寺院 建設 古墳築造
- ・ 酒造
釀造技術を伝えた。
- ・ 金属加工 鉱山開発
鉄器の鍛冶技術 鉱山の開発技術
- ・ 経済 財政
優れた財政管理技術で政権の財務管理を支えた。

交野と『秦氏』

⑯14

○ 秦氏の活躍

7世紀になって当時の**秦川勝**が聖徳太子の側近として力を発揮。

弥勒菩薩座像を太子より賜り広隆寺を建立し安置する。

この時広隆寺の地域を秦氏に賜った姓**菟豆満佐**に因んで**太秦**と称することになった。右京区全域が川勝の管理下であった。

783 長岡京へ遷都について秦氏の財力で全てまかなかった。

794 平安遷都の際も私有地を内裏に寄進し建設もすべて負担。

嵯峨野、嵐山地区の開拓、桂川の治水などインフラ、環境整備公共工事におおいに豊富な私財を寄進した。

○ 歴代秦氏で有名なリーダー

秦 伊呂具～稻荷神社 **秦 酒公**～うずまさの姓を賜る

交野と『秦氏』

15

桂川 渡月橋



松尾大社



太秦映画村



広隆寺半跏思惟弥勒菩薩像



秦川勝の墓所

寝屋川市川勝町に墓があった。

太秦町 秦町(はだ) 秦北町 秦八町

この地域一帯が川勝の支配地であった。

近くには何軒か秦さんの家あり。

秦川勝の末裔と言われる。

又ご丁寧に 川勝山太秦寺という寺まであった。

墓の清掃も行き届いていてしっかり守られていた

寝屋川市の指定史跡らしい。



こちらも秦川勝の墓だった。

播州赤穂市坂越海岸に**大避神社**がある。秦川勝が祭神である。京都の大酒神社と同じ呼び名である。元々 大闘神社が正しい。**だいびやく**と読む。

だいびやく とは中国語で **ダビデ** らしい。

始皇帝ユダヤ人説が又浮上して大変なブームであるこの坂越海岸の先百メートル位先に生島という小島がある。禁足地で普段は入れない。この島に秦の川勝の墓がある。

年に1度坂越の船祭りがあり12艘の船が島へ渡る。





1300年前の伎楽の面



生島の全景



坂越の船祭り

交野 と 漢人庄員【あやひとしよういん】⑯

渡来人による機織り技術の伝来

★機物神社に伝わる由緒【新撰姓氏録815年嵯峨天皇記載】

4世紀～5世紀にかけて漢人庄員が大陸より一族を率いて帰化。倉治地区を中心に養蚕技術を広めた。

7世紀には壬申の乱(672)の功により天武から交野忌寸の姓を賜る。元来漢人庄員を祭神として子孫が祀っていたが平安貴族たちが大陸の七夕伝説を習合したことから祭神が織女星に転じたらしい。



機物神社 祭神

天棚機比売大神

機榜千々比売大神 日本書紀

地代主大神

出雲系の神で軍神

八重事代主大神

古事記

機物神社の呼称と七夕伝説の結び付きには諸説あります
が一説によると古代の頃交野が原、今の枚方市
津田村を「秦田」交野市の寺村を「秦山」倉治村を
「秦者」と言つた時がありました 神社の名称は
秦者の人々を祀る社と言う事で

「秦者」ハタモノの社が当時の本来の呼び名
であつたと考えられます後に

七夕伝説と結びつけられて秦を機織りの機に
換えられて今では機物神社と表現されています
後漢の頃 日本の古墳時代に秦氏に代表される

交易商人によつて組織された養蚕布織の技術を持つた
民が大陸から渡来しその集団が交野山山麓に定住した

倉治 ハタモノ神社

⑯

- ・漢人(あやひと)庄員一族が織物技術を倉治地域に伝播
- ・「交野忌寸」と名乗り大いに隆盛を誇った。
- ・元々は交野忌寸の庄員を祭神として祀ったのが機物神社である。



【ハタ】を由来とする氏

秦さん 秦山さん
秦田さん 羽田さん
畠山さん 畠山さん
秦野さん 旗さん
波多野さん 波田さん 等

※ 断定はできません

【秦氏】の末裔とされる氏 ⑳

勝さん 長宗我部さん
松尾さん 島津さん
東儀さん 川勝さん
神保さん 秋月さん
原田さん 大蔵さん
浅原さん 新井さん 等

※ 断定はできません

ついでに 豆知識

②1

- 秦織物 機織部(秦織部)はたおりべ～服部(はとりべ)
織物をつくる職業集団を表す。ハットリになった。
服部精工舎 → 服部時計店 → セイコー時計店
- 綾部 綾部市は絹織物の産地で纖維産業が盛んであった。
この地域にて織物を広めた集団 → 綾部
綾 = 紗 (糸を美しく編んだ様子) を表す言葉
グンゼ は綾部氏が発祥地である。
共に **秦氏からの流れ**と思われる

秦氏が伝えた伝統芸能

22

2001年に第1回世界ユネスコ無形文化遺産に「能楽」が指定

奈良時代秦川勝が大和に伝えた 散楽(猿楽)が起源。

能楽=能+狂言

謡曲 楽器 舞 仮面劇(世界最古) マジック 物真似
操り人形 詩吟 漫才 等あらゆる芸能の始まり。

観阿弥 世阿弥の親子により 能楽が大成。室町將軍のお抱え
「風姿花伝」に猿楽の祖は秦川勝で親子はその末裔と記録。
「能」を他の芸能とは全く異なる世界としてブランド化。

「花鏡」の中で世阿弥はこのイメージを「幽玄」と称した。

能楽から生まれた日常の言葉

㉓

台詞	板につく	檜舞台をふむ
芝居	番組	ノリがいい
能書き	申し合わせ	打ち合わせ
見台	楽屋	世界
後見	脇役	初心忘れず
ツレ	狂言	番外
構え	運び	等 等

我が国に大きく寄与した渡来氏族

㉔

●阿知使主【あちのおみ】4世紀頃

応神天皇の時代 17県の民と帰化。後漢靈帝の曾孫。

東漢(やまと)のあやの祖。多くの官人を輩出。**坂上田村麻呂の祖。**

●王仁博士【枚方藤坂】阿知使主が**東漢**の祖に対し**西文氏(かわちのふみ)**

4世紀末頃応神天皇の招致で渡来、儒教、漢字、その他先進学問を朝廷で指導した。



百濟王敬福(くだらのこにきしきょうふく)

②5

白村江の戦いに敗れ日本へ亡命帰化した。

こにきしとは古代 3韓の王 を言い、
百濟国最後の王。738年 陸奥介に任命され、
東北にて日本初の金鉱を掘り当てる。
時折しも東大寺大仏の建造中にて、
全面に金箔を貼るにあたって黄金900両寄贈。
聖武天皇が大感激したとされている。
758年完成。後に枚方中宮に移住。
百濟王神社に祀られている。



最後に

明治天皇がおっしゃったそうです。

「大和は東の漢 河内は西の漢 京は秦氏だね」 感慨深いことばです。

交野も渡来人の活躍の下 今があるのだと思います。

川勝の祖先始皇帝が天下平和を目指し、はじめて中国を統一し、更に東の果てに、理想の国家とされていた夢の扶桑国蓬萊をめざしました。

そして彼らは秦氏と名乗り見事に安住の地にたどり着き帰化し先住民に同化し如何なく存在感を発揮しました。

その地こそ我が祖國 日本国 ありました。

ご清聴有難うございました。